



百花集

布袋庵柳几編  
天明二年仲春



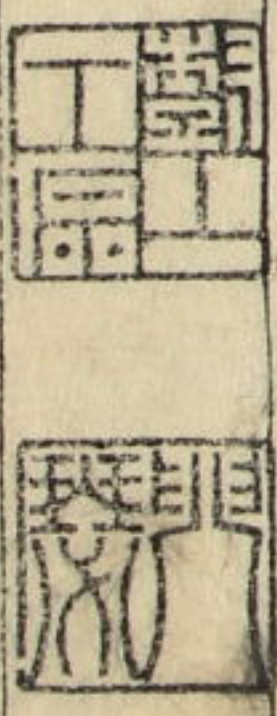
百花集序

凡編集するに其根干を以てしや、家友  
柳几子治、年角文字の世にけり、免華洛  
難波おりのりか、多象路山ハ新能の事、  
あれを、あまの、あまの、あまの、あまの、  
と、日本三景の、一、二、三、の、  
潮の歩を、と、い、ま、り、の、  
海と、越、え、る、火、乃、は、の、浦、を、

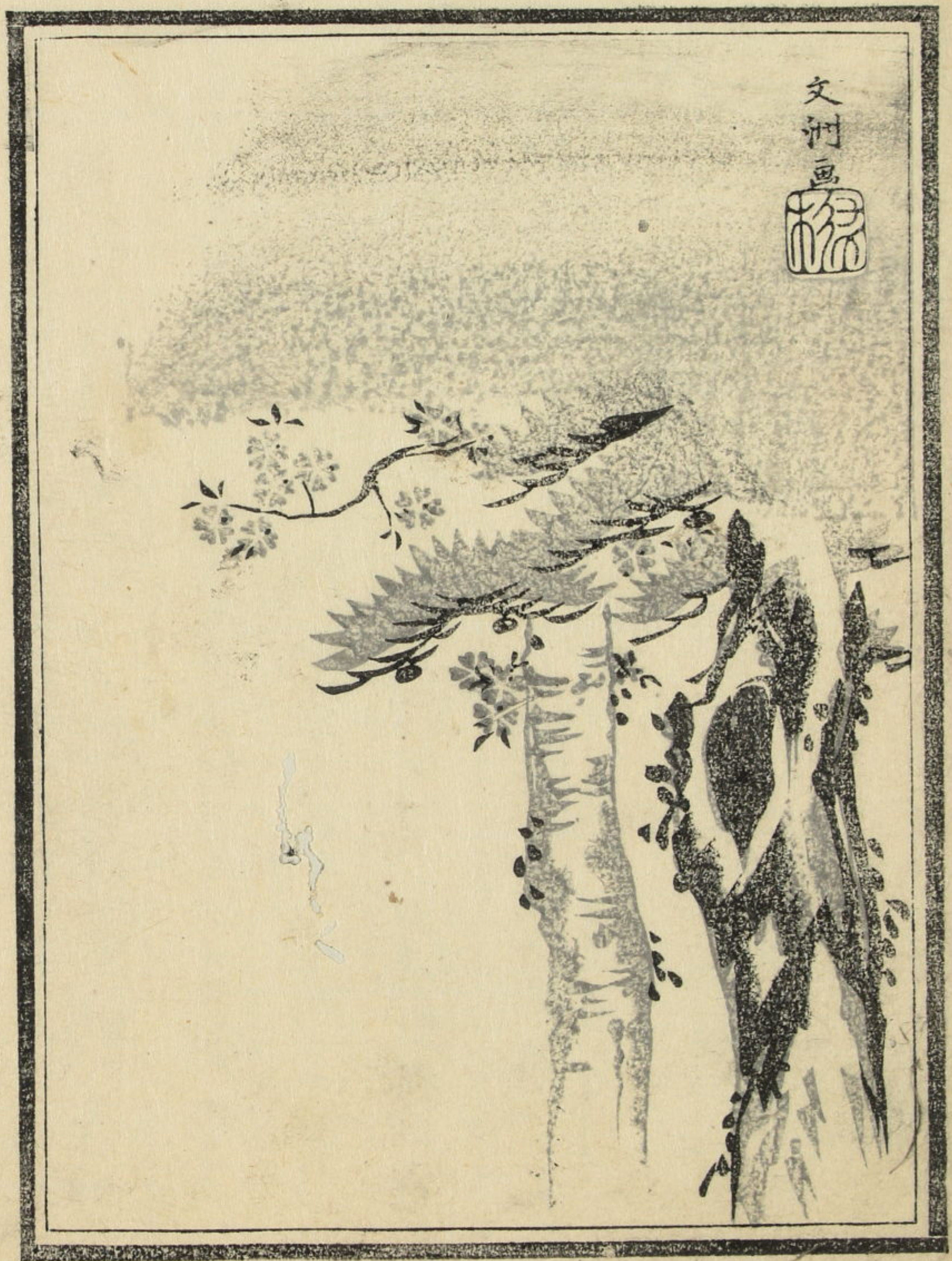
中崎よりいふ如き九山の賦ありて何れも乃  
 更の老のあけしうとあわさるにきらち旅  
 情を感し門は病婦や孫のなまらほしは  
 りらるゝぬのほはほほほいふなきぬいふ  
 おふらふあつさうはまらふと引返りしは  
 ほど遠よわらえとほくく子の本音のたもくも  
 千里の跋渉つゝうらうせこの名代官は帰るぬ  
 といんぢらうゝ名水のやう書中の満ちて

や母足と棒行をいふにたをく新くか  
 出合ぬくゝの句をきんぢするやそ彼家の  
 常端伯う十系強敏叔う十二世とくくや  
 〜〜〜勤いふ教をてる記集とあひまてりて  
 こゝ路と一席をいへるよほくとして出陣菴  
 燈下よりいふ採と記

武江 葛浦門 琴書



文洲画  
福



春

先へるこ人張りやう柳

布依  
柳

あつる石の曲案小陽

柳也

若乃板出せば乙多路彩

唯山

今しそくの如髪のせ所

亜柳

川の口明ても月と落湯

柳也

鉄のノ忍者やくま

青雪

新<sup>ウ</sup> 強<sup>ウ</sup> 之 情 見 之 里 之 悲 一 一 一 夜 相

去 之 三 程 一 一 一 七 之 處 一 一 一 香 路

賣 之 一 一 一 物 之 底 之 多 之 借 之 一 一 一 丹 寺

后 之 競 馬 之 志 似 也 一 一 一 里 江

之 能 一 一 一 一 一 一 一 乃 漏 一 一 一 水 岑 多

住 之 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 得 牛

七 夕 之 志 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 冬 花

障 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 相

拾 待 之 名 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 也

か 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 儿

其 之 花 之 底 之 小 之 多 之 一 一 一 一 一 一 牛

風 中 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 林

二 幸 而 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 梅

後 之 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 山

程 古 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 雪

之 原 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 花

引紙〜〜事七修吉と善きり  
 船席を破瀬治乃公と云  
 舟日七破や飯酒を 吾と云  
 雪足も白く二階三階  
 雪水〜〜要うメ事後手、作  
 其は〜〜冊、毒刃を  
 雪〜〜と流りて中水、故快の月  
 爰と案〜〜向所と云

担 奇 江 水 儿 牛 路 橋

之場〜〜駕小舟〜〜日那〜  
 衣髪結ハ一息を〜〜  
 衣を拭くも恨の細糸〜〜  
 幾や小と〜〜も松〜〜口  
 町を〜〜四季晴ふ之の席を岡  
 古きと換は〜〜之と云

山 路 枝 奇 卷 意

春部

白順任到素

春風吹くやうに梅もや山さうら<sup>雲</sup> 風律  
 何のさう遠入るも春の華<sup>云</sup> 之園  
 花と春の小屋へ入るも春の梅の華<sup>云</sup> 今免  
 梅も又春似るさうなや<sup>筑紫</sup> 晴雲  
 けしき苞の忍ぶふや<sup>云</sup> 春の花 月湖  
 山吹や梅もからむも<sup>云</sup> 春色とも 湖桂

春のさうら<sup>云</sup> 梅の華の<sup>云</sup> 花の<sup>云</sup> 文沙  
 掃きつる隅の梅の<sup>云</sup> 花の<sup>云</sup> 都舟  
 春のさうら<sup>云</sup> や<sup>云</sup> 梅の<sup>云</sup> 花の<sup>云</sup> 相羽<sup>信濃</sup>  
 けしき苞の忍ぶふや<sup>云</sup> 春の花<sup>云</sup> 文浦  
 春のさうら<sup>云</sup> 梅の<sup>云</sup> 花の<sup>云</sup> 相羽<sup>長門</sup>  
 梅も又春似るさうなや<sup>云</sup> 晴雲  
 けしき苞の忍ぶふや<sup>云</sup> 春の花<sup>云</sup> 月湖  
 山吹や梅もからむも<sup>云</sup> 春色とも 湖桂

春

よきよきのまといのしやし花 景 伊勢 林 奇

あすといふ日きほこしおせぬさうさ 梅 鞏

ちふ小咲く魚しよいさうは藤おれ 野 虫

世治しるふあましく人あし む の石 松 家

屠獲の香はちりぬあまも梅の花 桃 家

思ひき川をほ雁出く架むえの藤 之 影

依母の来い実もなみ花 能登 松 のむ 孤 船

白梅の底のほふとふか架り 其 前 楚 白

秋のうらうら 花 色 花 庭のむ 信 九

あつそう架てもなうさ 花 文 文 沙

掃き門く隅うと梅のし 都 舟

きんけ花うや 信濃 馬七 相 羽

けりあさ 文 子 文 信 信 文 信 信

字の巻く 長門 藤 梧 来

嫌く 蕙 里

初さう 雨 枝



春をふしの色といふのしや花 景

伊勢

林 奇

あすといふ日なきほこしおとめさうらゝか

梅 鞞

長ふ笑くちりしよといふは縁ゆゑ

即 虫

世活しるふりく人形しもの石

枕 露

屠獲の香はきくぬゆきも梅の花

排 家

思ひきりては燈出さず寝む免の毒

之 籠

伝母の家は富てもなれば 枕のむ

能登

孤 船

白梅底のほろろと雨か祭らる

そ前

雙 白

袴をきく盗む人而祭せ免のく肌

荷 塘

草花をやしと祈をよれば本珍笑

我 山

小家小とつらへくつ毒乃毒

楚 弓

馬くくあくくはたきくく 萱可肌

丹 木

枕くくやるは爪と爪下骨しき

兔 雪

齧鋸もきか氣とまきく 木爪の花

赤澤

舟 母

目みきくぬまのくのくくく 虫のむ

長 等

海棠や蝶くくきやきく 起るり

里 終

石のつらさのありし花の山 常陸 翠草

東山と師のつらさのありし花の山 常陸 翠草

日の影も籠るりし花の山 常陸 翠草

二つとつらさのありし花の山 常陸 翠草

おとどやおとどや 尾張 木吾

余も 尾張 木吾

去りし 尾張 木吾

惜し 尾張 木吾

岩は 尾張 木吾

常も 尾張 木吾

去りし 尾張 木吾

花は 尾張 木吾

山吹 尾張 木吾

梨の 尾張 木吾

之 尾張 木吾

之 尾張 木吾

三

常陸

翠草

翠草

尾張

木吾

木吾

木吾

木吾

木吾

尾張

木吾

尾張

木吾

尾張

木吾

尾張

六

嗚啼くく夏も川を流のさくく サヌキ 楚畔

山のきやあらく水尾き常の氷 女 亭臺

木あさくや名をげく 淡路 八根の下 秋色

春のきく地小尾を梅のむ 阿波 花桂

我く居や何はく 伊豆 柳長者 潮嵐

蒲云や子入く 相模 とも飛く 風涼

梅のきくはるく 相模 物く 喧きく 梨 芦雪

飛石き 何名果し 相模 花 洞曉

夏も 後河 柳く 曙おきく くら 柳 遠臺

仮物く 志戸 中く 雨うのや 柳のむ 物外

夏く 上徳 暮や 人き 知く 小尾 有 貞

夏く 志戸 暮よ 小む 一思 果や 窓の 夕

柳く 上徳 暮や 暮 柳 知 ぬむ 小 林 亭

柳出く サツマ 暮よ 小む 一思 果や 窓の 可 推

待く サツマ 雨一 果 柳く 窓の 菊 貳

柳く サツマ 暮よ 小む 一思 果や 窓の 山 柳 芦 碎

夕月さく吉原也 藤のうれ 出ま 里夕

色道くとき 碧く南 ヒセシ 赤呂

山飛く川 橋く吉原也 我後 橋歩

下原くし 一 橋歩 一 里相

うく麻乃 橋歩 一 初橋 虎里

白鞠花 咲く 一 風さる 一 吉原 佐渡 一瓢

白水も 流さく 花名 山家 和泉 のれ 景逸

長く 一 や 吉原のおく 一 や 藤の花 之向 水果

ちく 一 や 松の間 一 や 下 一 さ 久 佐渡 志け女

舞の 一 吉原 日や 柳 一 花 稲井

咲く 一 ち 一 ら 一 吉原 佐和 山橋 孤蘭

秋 一 立 一 乃 妻 一 吉原 養作 下原 一 未紅

よ 一 の 山 跟 一 り 一 吉原 橋 花 一 南 一 雨人

藤 一 吉原 一 吉原 一 山 一 寺 一 成 一 水 一 上

夕月 一 や 一 吉原 一 吉原 一 自 一 下 一 吉原 伊賀 相雨

長 一 吉原 一 吉原 一 の 一 吉原 一 の 一 吉原 石見 梨 吾

く川さくく人もさくさく日若狭の露 花雪

そよよき形くくく北若狭の橋下 泥牛

毛纏くく様くく吉山能作の那 今後

飛石小田くくく小ま伊勢くく風 排巴

神ゆりくく様もくくく肥前の鞠花 小麦

物の蔓切きくくか肥前の母 里新

醫者くくく糸花の糸の糸くく束和道く

巳く痛くく隠くくく糸備後の花 蘭室

あけのきくくくくく越中の糸 文吏

乙六くく糸くくくく糸筑前の糸 知夕

梨の花吹くくくく糸越中の糸 康上

肩てくくくくく糸土野の糸 烏六

千くく糸くく糸秋父の糸 老村

野々く糸豊前の糸 烏麻

糸くく糸至瑞の糸 至瑞

大く糸肥後の糸 文曉

風を助そと千ふや 夏風き久言 武江 後 吳

宇下飛鳥の四十小を 一溪の花 素 練

雪風く日小自心も 竹の籬 楓 園

白中母やその情しき 涙 笑 たり 大坂 竹 阿

雪吹くゆきふる 庭也 庭 風 雪 之 舞 武江 米 珠

尾寺より色も香も 似し 梨の心 笈 籠

蒲公やのしん 出るる 花の庭 信 宿

その種をまき 春も 秋も 出ても 九輪 菊 札 竿

庭を振る 如る 露 とも なる 花 菫 の 花 茂 楓

うさくみの 夢を みる 山 櫻 信法 百 箕

咲けく どの 日 暮 也 長 春 花 佐渡 沙 崎

大石 名 志 里 舞 ぬ 一 松 の 心 甲斐 洞 路

風 際 と お り くる 春 也 桃 の 心 丸 三 花

さし 露 と とも 花 の 心 なる 一 耕 子 心 声 上野 一 紅 女

蒲 云 や 花 散 櫻 出 づ 細 の 中 武江 海 水

蝶 飛 ぶ 心 なる 春 風 花 心 なる 心 臭 咏

家も又人の枝打や山を久良赤山 兔山

実抜る塔を半くは花の雨西平 笠志

糸高坊坊と掛りやむり前川 信之

橋骨や花不務と数葉の秋後有儀社 惟山

寂入ちうち好子酒死と不花 冬花

括りふけくもや華蔓中 亜橋

男をきり月人のゆりや福善草 栲杖

風薫る原流乃言や沈丁華 夜和

うりぬくも舞もかたは海危振中 香路

山へ行く人とききぬあま川橋 岑水

鬼も十七や菊君の世の時 青雪

土名へ聖辰ちり免きり橋草 得牛

こそかさる好所一や馬破木花 里江

長以尾とつぬ取り好く芽花と肌 丹弁

藤花を此もきくともりくは出婦一花 柳也

梅の子咲くともさうぬもと母と鳴ふ 柎儿



夏

投後一なけりては移や葉子花

舞亭 蝶夏

一村さつき立一 齧 狩 柳 儿

屯食を二人あやといきり夕

色こゝろ一 樂者の色々お

待宵も虫ぬけ屋 推の器写

麻子一 祝く石切坊 小倉 椿之



角力ツノリキのついでに力チカラを尽ツすなり 馬玉

何ナニも小コと云イふと云イふは之コトの味アジ 了マ紅

第一ダイイチの夜ヨは小コ片カタ折オリ戸ド 之コト林

茶チヤの湯ユ小コ入イ居イと清スガくク唾ツバ孔アナ 垂ツ垂ツ

下シタ々々と云イふと云イふの糸イトはハと云イふ 蟻アリ声コエ

猪イノシシの毛モウもモも 第一ダイイチの足アシ糸イト 頑ツル皮カ

伊イは小コ折オリ戸ドの籠カゴの底ソコ下シタのノ 成ナ字ジ

隣ナリ々々も吹フく川カハ流ナるの幕カキ 嵐カミ二

何ナニもモう折オリ端ヘ小コ足アシと云イふ 天王寺テンノウジ 儿コ

中ナカ々々は相アイ争マカひ花ハナ小コ足アシの籠カゴ 夕ユフ

代ダイ縁縁々々は昔ムカシ流ナるルと云イふおぼろ月ツキ 今イマ

蛙カエルの中ナカへ 松マツ明アキラくク往イく 又マタ

欠ヒ落ツも占ウラナひヒきけケハハと云イふおぼろ 之コト

室ムロ々々は下シタ々々と云イふ娘ムスメはハと云イふ 玉タマ

卯ウのノをヲ流ナ雪ユキもモわワきキくク意イのノをヲ 紅ベニ

入イ居イと云イふと云イふと云イふ 當マダをヲ流ナ 其ソノ

十一

河一海江々々相記限識々々々

無

手心々々々々々々々々々々

声

新の月四子粒降き々初々々

度

船湯砂砂々々々々々々々

字

幽霊砂今々々出海々々古我場

二

軍師色々々々々々々々々

儿

八貧の仲皆も赤小交り々

夕

庭々々々々々々々々々々

今

物々の向々々々々不審々々

文

一字々々漢の々々々々々

之

吉新々々々々々々々々々

玉

遠々温純を著々々々々

紅

海々々々々々々々々々々

枝

二々々々々々々々々々々

柱

夏部

持ぬる名を清く牡丹<sup>伊勢</sup>の秋

紫陽花やよしの花もよかき民古

人よの葉りよ花もよかき川

斗り花もよかきや花のよかき常

和らふよかきや花のよかき命二

よかきや花のよかきや花のよかき

粟の花もよかきや花のよかき

猿の花もよかきや花のよかき

垣の花もよかきや花のよかき

新島乃花もよかきや花のよかき

追ふよかきや花のよかき

花のよかきや花のよかき

花のよかきや花のよかき

花のよかきや花のよかき

10月

譽も流く流す淨くち也 相の花 下総 終脊

野原日小と雨のりや花や 新落葉 信濃 素人

赤生乃く流ひきりぬれ牡丹可南 巴矢

雨くれく化粧仕世はくふくぬ 東南

咲く時々回ふ人りかき 粟のふ 可矢

藤ノ乃登りくはくく家葵こゆ 吉川 浮萍

藤也石流ふくことりぬの 海 瓦 瓦

宮大夏や 志く流小もの小葉 大坂 田圃

水にけくきりて居るふ菱水 京 宜石

紫陽花也 碧く音也小かき 飛騨 兎 桑

夕う月や 流ハキと川く 茨 年 明

夕月雨き栗も止し 粟の花 日 亮

女房小指守く移くく女川 近江 嶽 有

くく流くハハぬねらり 言致乃花 芦 水

夕露や 馬の界は如 裏信屋 里 秋

五う月也 志くく流くの人も 説 説 花

菫の花や藤の田小きくはり浦 近江 巨洲

梔の花や 木下を 罽取 肥後 峯虎

動く 花乃 咲ほ ちと 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕の 花乃 咲ほ ちと 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

密の 蜂や 花乃 咲ほ ちと 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

蓮の 香や 又又 庭庭 氣氣 也也 先先 起起 矣矣 利水

るる 花乃 咲ほ ちと 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

山山 寺寺 也也 花乃 咲ほ ちと 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

凌凌 霄霄 也也 夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

夕夕 日日 夜夜 多多 ちち 東浦カホ 塞ホ 瓦 枕山

ちりもちりしほろろの月のはらけ 是れ 叶 推  
 物—ちんあふらふふたふまらんふ 素 雨  
 境目もきくけり句も也 也 也 也 坐 羽  
 蓮池やをるぬ花のうら 無云 合  
 豆うほやし 定 空をくく 笑 くの端 又 由  
 夕子あふや 音 して る ぬく 兵 とき 也 汶 川  
 紫陽むや 笑 け く ち あ ぬ 時 たら り 國 荷 涼  
 春 笑 く あ たら く 也 下 野 山 山 令

交番や 疲 した 屋 ー 香 の 本 者 可 候  
 夕 影 や 澄 ぬ 石 乃 く 先 加 減 陸 知 昂  
 ち く ふ や 清 ら 小 庭 花 曾 の 花 浮 東  
 積 葉 小 し う ぼ の 花 あ ち り 越 後 桃 路  
 十 白 色 く 茶 の 友 ち 系 杜 母 小 梅 雪  
 豆 庭 ぬ る 新 噴 ゆ く 思 存 く 申 花 桂  
 入 り き 拈 母 所 ー し 言 飲 の 茶 母 糖  
 屋 石 の 銀 とも あ ー ほ ぎ ん ー 新 光

浮草やうとけふは春ふいてる後 仙舟

雨くもや磯のや出家雲の化 且水

こそ彩りし船けりていさ言飲のまじ 春宵

十口井戸もも陰さうし 相のふ 之琴

卯のおもやも嬉しと世も目を身取まじ 鯉昇

まきのふやく人歌もなぐ甲と黒しゆに 蟹甲

垣乃よりしうらつ四つむの葵うぬ筑前 舟両

飛さう本や地衣の根と果も思ふ 狸雪

池むし月を葉ふらつむ蓮うら 烏弁

鯉突の新しきういや 菱の花橋登 布舟

蓮ふし池のほろも咲かくし依波 桐水

残るくふ小花のうく 若舟しと 春声

ふ小夜衣も袖も牡丹も雲原可風 天山

浮草小梅しり葉も冬も吹ぬ目と 都梁

蓮花や根なすけからぬ 船乃との大隅 舟門

浮草もや 蓮花もふらぬ 舟の表信 碇我

庭より雪を 横小白く 玉合の花 渡辺 麦冬

なまこやも 雪のうら 和翠

子指のちしむ 雪のうら 和翠

鬼不言といふ 雪のうら 馬田

咲く耐く 雪のうら 安房 冬山

おどして 雪のうら 安房 逸雅

短夜や 茄子の夏も 古童

多形く 雪のうら 乙路

理座ろく 雪のうら 山皓

うつくし 雪のうら 三河 樂和

夏のは乃 雪のうら 其柳

ありまや 雪のうら 渡辺 移山

蜘蛛の巣 雪のうら 峠斗

花のうら 雪のうら 里嗣

肥前 雪のうら 芦人

雪のうら 雪のうら 梨栞



小刀と唐笏さしりや素武江の心 素丸

隙にやぐさくはくはくや音の下 罍二

一斗也りやえん小形を借ら日す々 六幽

沢溜や漸ゆり上流糸の橋下総 野叟

花多咲新と留るやうきり武江 知足

切し中いしとさうふ花蔭蔭 孤山

里色し麦の中ららし伯耆 南榮

夕暮小花のふ髪やし武江 柳一

なま子や乳けとにうぬぬぬの水 蓮胡

摺子や糸ゆふのひくせに美 明遠

そく夏花盛をけく吟小くく 逸窓

竹葉や新し岩方の下 糸下 石漱

漏通ふえんろろや等尾の花 一之

しり川藤く種やと海道く淡夢 象泉

岸や瀬は小小吟 二石

色むもり多る牡丹志香の小 眉甲斐長

ほんまけもも新也 相の藤 後文 枝母

咲節もゆもかきゆに 玉言の花 目貯

車母も巻乃 夜も又花神うれ 知蝶

佛氣も一 蛾も豆麻や 蓮の心 佛心 清買

ゆい 赤場辰ちも花し 夕車 毎月 山路

思も入 辰口の 枝も 跡も 赤岩 素花

あつたのももつ 赤うちも 突花 吉見 叶巾

えの志れぬ 蘭も出も 千鉢 志水

とくぬ 夜のみ 夕 松山 二川

葉も入 夕 葉の 夕 葉も 夕 梅舎 赤

風もや 夕 夕の 夕 相模 梅舎

いそく 夕 夕 夕 相模 凍石

甘酒の花 夕 夕 夕 無言 雪白

十景池 夕 夕 夕 或は 千村

袖の花 夕 夕 夕 友景 友景

夕 夕 夕 夕 甲斐 湯泉

巾のふや吐く雪もかりい出後存 風葉

山崎く尋ひ入る 粟乃花 花曉

暁く志高をふく在備後中 萩乃志 杉夕

夏とらん秋もやりらん 至日石 藤舟

一思案ありとた向く 仰り如花 龜文

静い澄る 蝶もきふやまらん中 桂之

殺醫者の垣ありと免るを詠ふ 馬玉

も天也きとありとさぬ花の付 馬印

流幸とく庭のま交やふ丁花 之林

厚朴のおやきりく 名物と縁 龜在

河骨や川も交被せく 時分 蛙声

ふう花乃見き王し忍ひ了草 碩哉

ぢんまの所夢もあつたり玉匣中女 まゆ

蝶くともんときる存る也縁人草 くら

新ふらりの山こき阿き花阿也兒 峯二

母衣かけと敷盛るや 花の原 柳儿

文岩画



三

秋

新水若くは流りて秋のそよ

羊掃店  
也育

新か落つと月を揚善戸 柳儿

虫軍のあつらふきくら落つ 東園

若くは落つと板文庫へ 藤奥

雨後うきく本原に中あつらふ 坐来

いふ事消は菅川の音 東松

十四

狩人志火縄おりく借ふ奇 香芥

身小豆くくるハなつて箱買 行露

意丁屋と神と甲くく一の交 厂信

田唄小片水く浮信 三味線 吹笛

雲く新をりくく 柳くき新 画梅

金乃降月と庵小弓をき 木口

月の夜と世と唐堂此園 洞 芸河

角力の負の四西里筆く 梅戎

伝父坊此号見きどつとく其堂又 秀石

町くく水乃茶漬一箱 園

家屋古の極く移家もきけき 儿

今此きくも新玉 拾現 来

新玉も素乳の癖をこハかきく 真

鏡はぬみくく小箱 香 芥

新被をお落せはきくぬ温く立 雲

茶庭を掃くく乾夕暮 涼

山人

毒樹も実もみずも水も活きぬ

彦

雲井の窓より雲の花く

梅

上の書取讀くもあつ存け快

笛

七も云なり水も見きぬぬる

石

亡八屋も云々教り家明中交

口

舞一は名来も出千の山出

石

葛水乃塵く思ふ二月月

戎

休りと通り雨の鞠垣

儿

本看くそく實朝の代後後り合

圃

新ふ老もよ水ハ高るその

奠

風呂吹もよ水ハ高るその

来

命一休も書出を指は

去

仕度する自利もよ乃花日和

着

学事啼く雪ふ春の分

彦

〇六

秋社 白順位到来

葦や蔓き日南へ這つて山原 尾張 蓮阿

降尿日少と雁砂の雨々也新花 蒼束

物いつ糸くひう小 秋海棠 漢山

舟戸端く上戸とゆり暮れを 素柳

朝庭也床ふんと華と思ひけり 花障 倚南

冬ともなりあはけり花序 陰漏

くちをいり水くおう一窮は華 安藝 可友

山風や依徳乃く体の女節花 梅水

高橋を蹴りけりふ一花のむ 渡女

富原もなつても花の更は雲 近江 素長

公尊や月の中心の中ふりま 蘇州

草生くくくくくくくくくくく 筑前 折風

まきやもも一葉菊のちり 筑前 風花

あつたやもも一葉菊のちり 筑前 梅二

阿さう本やあこの常此かりくまき 常陸 鳥尾

くくく座ふくく、白ひや葉の花 伊勢 孤有

朝鳥也 意のさきまき 能登 下河原 見推

結まくせりくとくく 花のむ 豊前 曙雀

保くく酒買ふ残や 菊の華 渭水

麻と舌家とまも 碎わさう 牝のむ 周防 芦光

ねくのまも 海や 風の瓦花 備前 壺外

男と子取 鬼吹まきまき 壺外 備前 百樹

月夜く 留のまきやし 菊麦花 陸奥 菊吏

阿さ川さう 脊中 阿さ房花 花 美濃 芳角

尾寺也 けくくまき 水く 葵今花 美濃 經山

尾寺也 けくくまき 水く 葵今花 美濃 經山

阿さう 阿さ 陰く 咲日 信濃 筑之

幕や 教 咲ぬ日乃 阿さ 信濃 自徳

阿さく くくく 阿さく 阿さく 阿さく 三河 米林

まきく 阿さく 阿さく 阿さく 阿さく 飯中 李夕



糸の多水く籍以佛——雨の音 後中 湖光

庭室此を日く——や花よ 越後 雪

清く庭家月や 芝草の影ほく 柯 風

一まひと世ふらうけく—— 里 幽

紅葉の月の碎くもや 庭 泉

娘の何ぞく 支 柳

飛くく小とがんと 尾 下

籍改やし 但馬 誇仙

甲令や 葎 夜雄

多引のむや 肥前 童

鐘の音の目 阿波 夕舎

あさく 出羽 響窓

軽く 後 古声

阿さく 遠江 途

暮 遠江 途

語りけ 胡 中

新麻上野ヤのマカキカキカキカキカ 素鞠

あさらしやものるひを蔓ハ小似んな 女 罌粟

薺ノヤカ合多くむと長く衆と哉中 小父

何さらしや星のりひを回るるむ 石見 楳鞆

母くろくのまのまろくや菘のあぢ佐渡 芋芋

白雪のあらくのまの蔓のほろろくれ 相模 塙声

あまのまや麻之のまま通ふかし 淡後 古行

朝のまらしき斗能取む 日向 眉雪

以ろれ頃まなくく 葵のあぢ 筑 桃径

月のあら後一のあぢもやまられ 梅 後

何のあらくゆも死のあらしけ梅板 蕪 宇

あまのあらくのあぢ小まらし下野 英 糸

春の世活甲愛のあらくてあらくのあらく 微 冬

尾幸小世のあらくてあらくのあらく 伊豆 九湖

あまのあらくてあらくのあらく 信濃 鷲山

あまのあらくてあらくのあらく 曹 堀坡

履山と名花野小冠正伝尾法寄湖

月小清色甲斐一一家尾尾正伝尾法寄湖

毒の後播福良の花の一掃播山字

相津乃肥き目と肥あそほ肥花肥芝園

仏小と小うけ茶小や小ふ小時小性水

暖暖る暖る暖十八日暖や暖飲暖音暖中暖蕉雨

月月満月り月り月や月量月家月も月雨月の月日月七月合月点月源来

夕夕日夕新夕流夕家夕通夕下夕系夕河夕字夕源改源改正源改因源改

花花咲花く花る花や花ふ花承花り花一花翁中東阿

小車小や小甲小銅小の小糸小接小ぬ小付小作小伝小

今今七今く今流今符今の今流今や今無今く今一今禹柳

うう一うゆうくういうくう水うぬうむうやう子う稻う吹う稻う亭牛甲斐

羊羊存羊や羊甲羊小羊は羊長羊く羊乃羊亦羊定羊仙羊奇羊

飛飛く飛く飛く飛川飛流飛一飛家飛那飛と飛夏飛少飛春湖

牛牛乳牛く牛く牛家牛色牛の牛流牛く牛く牛女牛席牛花牛西谷西谷琴詩

大大根大小大も大く大く大く大く大菊大の大九大日大く大武江武江外麻

人あしぬ縁のむや〜  
 日返り〜也あん車〜  
 夕暮小〜  
 入口瓜蛇乃片〜  
 後天家どのむとや〜  
 世の縁の度〜  
 徳布

海道や兼の袖〜  
 月小あり〜  
 十人〜  
 亭〜  
 喜〜  
 小原〜  
 又〜  
 寺の名〜  
 成表  
 信法  
 相志  
 花音  
 元也  
 英柯  
 志隆  
 阿波  
 圃和

名の流流 流いおし山や葉のうら 秋父 江魚

きくくく 流のむきき 流をくく 大宮 枚碇

侍人小まはくくくくや 如布花 上野 葉丸

くくく 流のくくくくくく 安房 宜明

くくく 流のくくくく 久下 久亜

川原に厥もくくく 尾張 甲史

かくれ 流のくくくく 備 備夕

馬乃尾のくくく 尾 尾むく 免石

那那の美花 ぶくくく 菊 菊史

流くくく 三河 里曉

ある時々 杖ゆくくく 之 之花 之枝

朝のそ乃流 流くくく 武 流江

けくくく 越 流花 合凍

陵へ日 盈くく 常 流水 樹

本原のくくく 尾 流石

けくく 甲 流尺 五

わづら子水 薄も志何そ 再横を 麦 鴨

小刀小芒乃 丁う新 正野可 申 麦 沾

屋もも新小 阿そぬや 曾仙花 東 圃

好く伝き 寄海や くさだの 正盛 原 矣

四海信 志川や 甲の 稻のそれ 坐 来

あさきと 咲花や 菊酒の ー 後あ 東 松

よあぬるの 師と 里を 水は 稻の花 香 有

ふ新や 星始 始入 小 咲 阿ッ坊 行 彦

花夏の花や 飛浪 倉も 垣 隣 丁 浮

却 後心の 夢や 夢女の 化 松 村 夜 籠

入 相の 目々 月 雲や 心 松の 華 画 梅

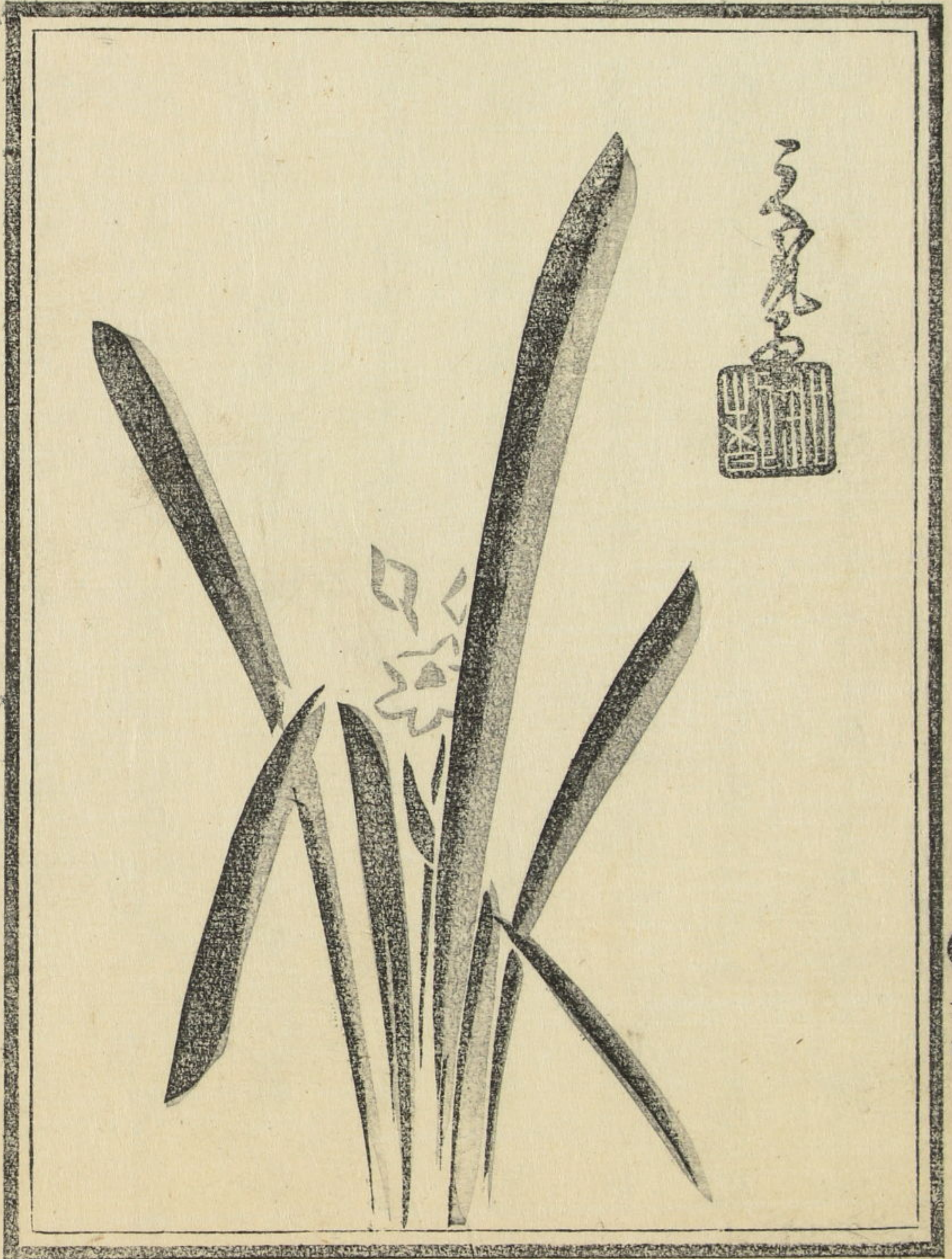
児の 夢ふと ころ ころ 家や 女 希 花 木 口

長 生 妙 酒を ち 彦 なる 仙 娘 心 高 吟

夕 夕 小 野も かや 也 糸 所 子 梅 戎

きん ぎや 葉 自こ 花を 出 湯 ー 秀 石

おこ へ ー 花を ち 也 夢の 正 吉 後 柳 儿



冬

水仙や冬は花居のちりりり子

抱山亭

門悪

りきり戸出る活中一のま

柳儿

の舞者の修々ニ舞おうけし

篁雨

ちりりと運ぶるも世に閑者

支有

浅湯の河川そと月を擡げし

杏五

是れは月門の礎まゝの

尾海

踊うつお抱守此をりく来 於也

信くやうくちき恋の世の中 共英

うー合夜後恋のうー小やうけく 新梢

叶来幕しふまありー 素見

蘇上る細も簪あけ男ぬり 已更

裁存り影はきぬ海山 三能

りくく象の月を透る共重長年 風二

雨雨の吹掃床もさなきあり 雨

道なき海さくくめさく 魁辰吉 宵

白砂のものをすくに吸物 五

海来印なき揚小階の寺 海

峰一の葉ありくと松小石原 生

二  
月名くくくを海古系引まの 英

薙刀はくふ肘もぬり袖 梢

秦吉すくは海子すくは情かうく 兄

秋の上めもくくは半の 雲



飯を糞ふくも拵ぬ細工母

條

浪士此やと死の雲に反古志

二

青梅の産るくく流ハ鯛中

儿

りふき海くもく松田海石

宵

一節一等小粒ま成とあぬのと

雨

汁 溜まても明けと盗人

海

悠然と寐く吾る秋遊小娘の目

五

人物も日本忠義の宝巾

莫

ウ

新撰小五郎の舞子子文一

也

今一階五郎 甲斐の守

兒

秋猿々啼けハ子猿う湧くも取

指

今節まうく夕日又よう

飯

回三介仙五郎一正花の中から桂立

唐

白の種もお流長君う代

儿

冬部

白明任

空く事や伸く枝めとまの事 武江 卷阿  
 へく仙や子事の中のとめとりの 秋風  
 なるふゆく巻く事もほくく石路の事 鼓水  
 宗且好く事路くく石路の花 孤石  
 水仙や養山神もゆつりその 秀外  
 冬仙や教のくく路を空く山寺 東部 瓦全

武江

作山くく事さくくの内中常一花 宗瑞  
 山常もせ車やくくはかぬき門 百又  
 飛く川くも枯き山と指は水仙花 泥尾  
 冬事くくぬ甲くく冬の花をくく 又令  
 枝やむきくくも 空心事くく 冬古  
 冬や咲乃事打くくく白髪綿 女 未嫁  
 冬くく事小流流く路く石路の事 紫東  
 空の事くく路く咲く松把の花 尤妻

津〜〜中〜〜中〜〜室の毒加かろ 尺伶  
咲〜〜の沙は伊〜〜帰下総 振替  
山茶花や弱女目水〜〜ん女の〜〜  
鄰〜〜あ〜〜に〜〜れ 仰〜〜花信濃 二  
茶花の香山ふ〜〜目〜〜か 如毛  
う〜〜山志〜〜(〜〜) 定 桂豊前 菅山  
水原あ〜〜花のう〜〜あめむ 蔓子  
花も角と成魚大〜〜の辰室の梅大和 白急

於や花咲く〜〜の〜〜あ〜〜ん三河 木原  
山茶花や白山〜〜ハ〜〜サ〜〜ク〜〜花尾張 素圃  
ふ〜〜あ〜〜香き花も〜〜あ〜〜花尾張 柳夜  
丁も守り花山又心花や 帰花 飛六  
あ〜〜い〜〜い〜〜い〜〜や〜〜れむ 吟支  
新〜〜あ〜〜時き〜〜り〜〜花尾張 字海  
新〜〜あ〜〜花尾張 花尾張 花尾張 流  
茶の香や梅山〜〜香〜〜く竹 山尾張 香

水仙花 長門 芦花

大根乃ぬけ世海江やしらんを 世謝

うはまきうへ半分うへや 岸花 帰田

葉のまや小石うらぬる道は信し 飯前 炭火

水仙やまきも山小くぬれやぬ 依方

やうへ日ぬぬるをまきま 肥前 亭々

日こし風おこしきうへ 肥後 杉林

その日ぬぬるまきま 下総 玉寄

杉や鬼もふくまき 肥後 鴨足

ふれ仙やまきのかきま 陸奥 長石

空のまきやまき 丹後 馬吹

空のまきやまき 日向 五郎

け 越前 庄阜

水仙やまきのまき 伊豫 紫衣

空のまきやまき 伊賀 権三

空のまきやまき 伊賀 長袖

ほくくふふふふの花は月あかり 東 三原  
片枝くしゆわきぬくやうくくく 上野 ト全  
雪垣の根古くやし 依後 尤溪  
葉尔叶 陰迄くぬく 伊勢 素周  
とくぬぬ 在得 曾田  
昔くく 甲斐 万牛  
隣 周防 士原  
茶坊もや 周防 士原

我々 國法 其待 河 玉 毒 胡 粉  
掃除 河 花 為 表  
山 信濃 隨  
葉 信濃 林  
其の事 依後 水  
山 信濃 房  
寒 山 葉  
早 伊勢 雪

室梅や日もすくすく愛くしら言え志山

帯の尾もひらや子屋の御花 李白

あゝ梅は雲山ゆつとて枇杷のど松山た文

園の流く身はきくふくや水仙花 相今

水仙や城山吸つぬく苔と物伊勢松

寒山梅や人なき古後のちぬうち豊和馬橋

くろ仙や霧のくろく小朝ほくけ 立之

梅も秋のよき水也 枇杷の梅尾張梅見

今此日の古日とせり 冬牡丹信濃紫圭

あきく日ぬくやふき花や御花讃岐沽源

空きくやふき山子の藤との上野袂角

納豆く藤くむくや室の葉常陸還珠公

松の花やふきく 花の 管面

室の梅や人小水くきくハナ 支有

茶の花や茶各茶茶知の中 吾五

くろ仙や藤もくも方ぬく川くき 尾海

さしつゝ花をまきつゝ花ハつゝ

柳也

春の母いそぐき膝もろくも

楚英

茶のど也自いそぐおのうき小漢

新梢

月相をくくむ沙はぬーゆ花

素兒

さふくも夏の古き花や帰む

五雲

くゆや夏も又くくそのあつひ

三條

高き樹園小苗もや樹杞の花

卷二

勝らぬ家室を春給く櫃のむ

柳儿

追加 春 雑 夏

着死の眠りさあやや嬉さく

肥前 七サキ 味道

夏も川を新り川を新り

如川

世も清きよものけりもや梅の花

紫溪

朝も川を新りひりくもや音も

聴去

おさくも指板切もあつゝも

松亭

降はる家けりも花の色

梅亭

ハもこりも花けりもあつゝも

八松

宮ふたきそのまをや蕙子花 七サキ 可夕  
 塩魚くし 塩氣と母むや 極のむ 五州  
 暖ふ目のまゆけやし 豊前 長山 中は  
 稻けくし 此駕と 柿小 山さく 越前 里川

俳諧一教記語

春をふたきのまをや蕙子花の人多く  
 塩魚くし 塩氣と母むや 極のむ 五州  
 暖ふ目のまゆけやし 豊前 長山  
 稻けくし 此駕と 柿小 山さく 越前 里川  
 月夜もふたきのまをや蕙子花の人多く  
 塩魚くし 塩氣と母むや 極のむ 五州  
 暖ふ目のまゆけやし 豊前 長山  
 稻けくし 此駕と 柿小 山さく 越前 里川





くけりるゆりるのしりりり

右

奉芭蕉忌千句真行笑語

布作庵

ふりやまのまふり

研儿

ふりやまのまふり

ぬ書

天明二壬寅仲春穀旦

案山子菴藏板

世吉

八十元兄弟

